



◆謹賀新年◆

東和通訳センター センター長 中牟田 和彦



新年のご挨拶を申し上げます。医療従事者の皆さまにおかれましては、年末年始に不眠不休で業務に携わった方も多かったことと存じます。その間も Medi-Way の通訳をご利用いただき、少しでもお役に立てたものと思っております。

また、元日に発生した能登半島地震におきましては、多くの被害と被災者がおられることに心より御見舞いを申し上げます。

このような状況におきましても、日本語を母語とされない方々へ医療の現場にて Medi-Way では今後も安心して言語のコミュニケーションをお届けしてまいります。

「誰もが安心して暮らせる多文化共生社会を目指して」を合言葉に、本年も引き続き「Medi-Way 医療通訳だより」をご愛顧くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

Medi-Way 医療通訳者紹介 Vol.25 中国語担当 劉さん

◆なぜ医療通訳者になった？

私は元々中国の看護師資格を持っており、来日した当初は受験資格がなかった日本の看護師資格をなんとか取りたいと決めて、制度変更後、猛勉強して取得することができました。思えば大学受験以来、人生で二番目に無謀な挑戦でした。こうして得た医療知識と、日本での勉強や就職で身につけた語学力があれば、医療通訳として現場で役に立てるのではと思い、目指すことにしました。



◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

コロナ禍以前のことで、担当していた患者様が日本でお亡くなりになりました。しかし奥様からは、私たちの仕事に対する高い評価と、病院やスタッフにお礼の言葉を頂きました。私たちが一丸となって最善の対応を行い、患者様やご家族を励ますことができたことにより、納得できる最期を迎えられたのだと思います。奥様の「医療通訳は非常に意義のあるお仕事です。どうぞ今後も続けて、もっと多くの患者さんを助けてあげてください。」という言葉が大きな励みになっています。

◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

正しく訳出すると同時に、医療者や患者様の表に出ない気持ちを汲み取ったり、伝え忘れていたことを思い起こしていただき、納得のいく診療ができるようにするのはかなり難しいことです。機械的に対応するのではなく、温かみのある医療通訳ができるように、今後も心がけて練習していきたいと思っております。



今月のトピックス

「病名の言い換え」

昨年、日本糖尿病学会などが「糖尿病の新たな呼称」として「ダイアベティス」を提案しました。普段、医療の現場で多くの糖尿病患者さんと接しておられる皆さんはどのような感想をお持ちでしょうか。また、秋から冬にかけて「プール熱」が流行した際に、「プールで感染が広がるという誤解を招きかねない」として要望書が提出されてニュースとなり、「咽頭結膜熱」という呼称が広く使われるようになりました。

世情から病気の呼び名が変わることは、今までにもたくさん例が見られます。今後「ダイアベティス」が浸透するかは分かりません。英語通訳者に聞くと「ダイアベティス？どちらかと言えば、ダイアビーターズかも？」と発音チェックが入りました 😊

病名といえば、最近中国語通訳者が遭遇した件ですが、医師から新型コロナについて質問を受けた患者さんが「武漢肺炎（中国語では、ウーハンフェイイエン）」と呼んだそうです。通訳者はちょっとビックリ！武漢の人が聞いたら、きっといい気持ちはしないだろうなあ…と思ったそうです。それでも、言葉は世につれ変わるもの、通訳者である私たちは、何かにつけてアップデートを心がけないといけませんね。

